

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKU

2022.8 No.113

トピックス

- 「勾玉をつくろう」を開催
- 「津山松平藩町奉行日記28」刊行
- ミニ企画展「庄野ヒカル展-四季の花々、こども、風景、ファッション-」を開催
- ミニ企画展「世界の布Ⅲ -インドネシアのバティック(ろうけつ染め)-」を開催中

資料紹介

- 考古資料この一点④ -荒神峪遺跡の銅釧-
小郷 利幸

お知らせ

- 特別展「博学弁才無双・津山藩主松平康哉 -学び続ける人々-」を開催します
- 諫早市友好交流都市
出雲市・津山市三市交流展が諫早市で開催されます



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(庄野ヒカル ヒナゲン畑)

令和4年度 夏の学習プログラム 「勾玉をつくろう」を開催しました。

8月2日・8月9日の2日間で12名の方が参加されました。参加者の皆さんは、勾玉づくりを熱心に取り組み、とても素敵な勾玉ができあがりました。夏休みの宿題や宝物にするそうです。

皆さんの感想文を紹介します。

北小学校1年 日下凜美さん

たのしかった。かんたんだった。ハートのところがかんたんでした。またつくりたい。

一宮小学校2年 藤木心都さん

けずるのがむずかしかった。だんだんつるになって形もかわいくなってきたのしかったです。またつくりたいです。

西小学校5年 萩原真希人さん

最初は四角だったのに、けずるとまるみがかた。最後のツヤをだすときはツルツルになった。昔の人のようにうまくはできなかったけれど、うまくできたし、最初に勾玉のことや、勾玉はちがう書き方で、曲玉とも書くことができると知れてよかった。

河辺小学校5年 長船楓子さん

丸くするのがむずかしかったです。がんばって丸くしたら上手にできたのでよかったです。お母さんもとてもしたそうでした。おもしろかったです。



高野小学校3年 木多志織さん

細かいくぼみをけずるのがたいへんだった。角を丸くするのに紙やすりをおってけずったり、えんぴつにまいてけずって丸くした。できあがって首にかけてみてうれしかった。できあがりはつるつるできれいになった。

北小学校5年 川口悟志さん

やすりをあつかうのは初めてだったが、上手にできた。楽しかった。



一宮小学校4年 藤木心晴さん

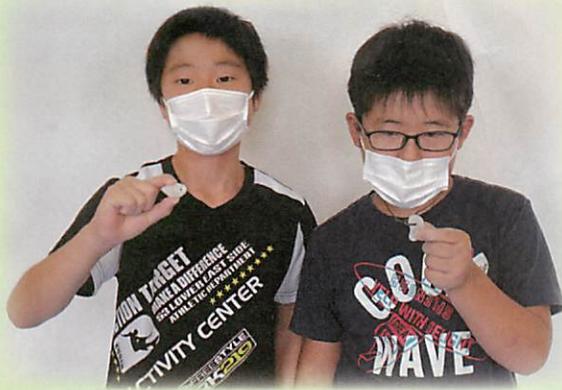
勾玉を作ってみたら、いろいろな紙があって先生にくわしく教えてもらったよ。勾玉は3000年前のアクセサリーなんだって。いろいろな色の勾玉があってどれもきれいだったよ。私はハートの形にしたよ。楽しかったからまた作りたい。

鶴山小学校4年 池田智陽さん

ぼくが思ったのは、形がむずかしかったことと、細かいところがけずりにくかったことです。だから、やすりをおったりしてけずりました。大変だったけど、できあがってうれしかったです。

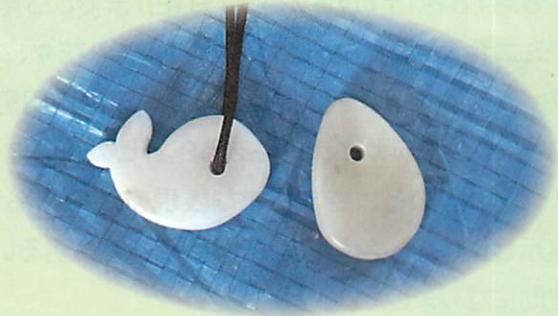
鶴山小学校4年 藤田詩乃さん

石をけずるのが大へんだった。手がいたくなかったけど、石をみがいていたらいたくなくなった。表面をみがいたら、きれいになったのでびっくりした。さわったらすごつるつるだった。



弥生小学校1年 飯田陽莉さん

みがいたらふしぎないろができてうれしかったです。きれいなかたちが出てうれしかったです。



広野小学校2年 英来葵さん

たのしかったです。またやりたいです。やらせてもらってうれしかったです。

広野小学校4年 英芽唯未さん

楽しかった。キズをけすのがむずかしい。手がいたい。

『津山松平藩町奉行日記28(文化7年)]を刊行しました。

博物館で所蔵している津山藩の資料から、町を管轄していた町奉行の日記を活字化する作業を続けています。昨年度末は、文化7年(1810)の町奉行日記を活字化し、『津山松平藩町奉行日記28』として刊行しました。

文化7年の出来事のなかで、印象的なものをご紹介します。

7月には、分銅を検査する役人が来ています。江戸時代、秤で重量を測定するとき、重量の標準として用いるおもりである分銅は、その精度を保つため、分銅改めが行われました。分銅改めの役人達は、7月12日に鳥取から智頭を経て津山へ到着しました。

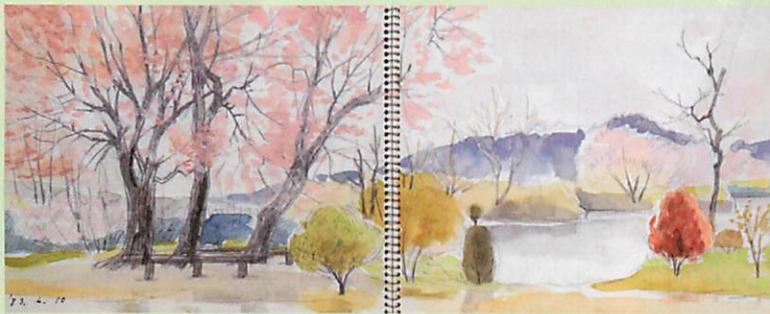
この分銅の所有者は、城下町の有力な商人11人に限られ、検査は1日で終了しました(「分銅改め」『津山学ことはじめ』)。

また、12月には、郡代下役の佐藤郷左衛門が考えた、「赤子間引禁止」をより普及させるための案なども記されています。

当館で600円で販売しています。

ミニ企画展「庄野ヒカル展－四季の花々、こども、風景、ファッションー」を開催しました。

6月18日(土)から7月31日(日)まで、3階展示室の一部でミニ企画展「庄野ヒカル展－四季の花々、こども、風景、ファッションー」を開催しました。津山市田町出身の画家兼ファッションデザイナーである庄野ヒカルの油彩画、日本画、スケッチ画など、さまざまな表現方法の作品や資料を18点展示しました。色彩豊かな作品が多く、明るい雰囲気での展示空間になりました。

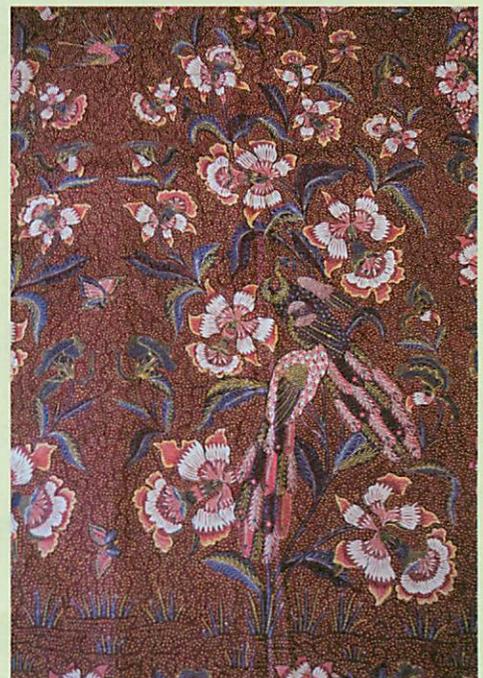


ミニ企画展「世界の布Ⅲ－インドネシアのバティック(ろうけつ染め)ー」を開催しています。

【会期】 令和4年8月6日(土)～9月11日(日)

【会場】 3階展示室の一部

津山市文化功労者の三好基之先生が永年収集された世界のさまざまな布のコレクションの中から、インドネシアのバティック(バティックはインドネシア語でろうけつ染めのことを意味します。)を展示しています。これまでに世界の布Iではインドネシアの絁を、世界の布IIではウズベキスタンやイランの刺繍布を展示しました。



考古資料この一点④

荒神峪遺跡の銅釧こうじんざこ — 銅釧どうくしろ —

小郷利幸

はじめに

津山郷土博物館1階の弥生時代展示コーナーに銅釧と呼ばれる青銅製品の小片が展示されている(写真1)。常設展示のリニューアルに伴い、今回初めて展示された。

銅釧はいわゆる青銅製の腕飾りと考えられており、お墓から複数出土する場合や本例のように住居跡から単独で出土するものも見られる。破片ではあるが県内でも類例が少なく、貴重なものと考えられるので、今回紹介する。



写真1 銅釧

資料紹介

銅釧は、平成8年に津山市戸島地内の津山総合流通センター(現津山産業・流通センター)の建設に伴い調査された、荒神峪遺跡から出土した。本遺跡は弥生時代の集落遺跡で、住居跡18軒、建物跡6軒、貯蔵穴などが検出された(図1)。出土した土器から弥生時代中期から後期に至る集落遺跡である(註1)。銅釧が出土したのは、直径9・5mを測る円形の大形住居跡(図1、SH12)の柱穴内

からである。調査当時夏休み親子発掘体験教室を実施しており、親子に住居内の柱穴を体験で掘ってもらった。筆者が体験教室を担当しており、お父さんと女の子の親子ペアが掘り出したことを思い出す。その際写真1の左側の小片が最初に、後から右側のやや大きな破片が出土した。そのため、当初はこれが銅釧とは気づかず、後から出た破片に平らな部分があったので銅釧とわかり、あわてて周辺の土をふるいにかけて精査したが、その他の破片は一切発見されなかった。

銅釧は平らな部分の長さ3cm程の小片で、表面はかなり剥落している部分もあるが、残存状態は比較的良い。上部は平で側面は稜をもち、断面は台形に近く、内側は鋳型をくっつけた際の接点がばり状になっている(図2)。時期は出土した土器から後期前半頃である。

銅釧について

銅釧については、調査報告書でも若干の考察をおこなっているが、その当時から類例も増え新たな論考も見られるので、あらたな知見を加え若干まとめてみたい。銅釧は貝輪が銅器化したものとされ、ゴホウラ製の貝輪を忠実に模したものとされ、本例は木下尚子氏のゴホウラ系銅釧・有鉤銅釧(註2)、井上

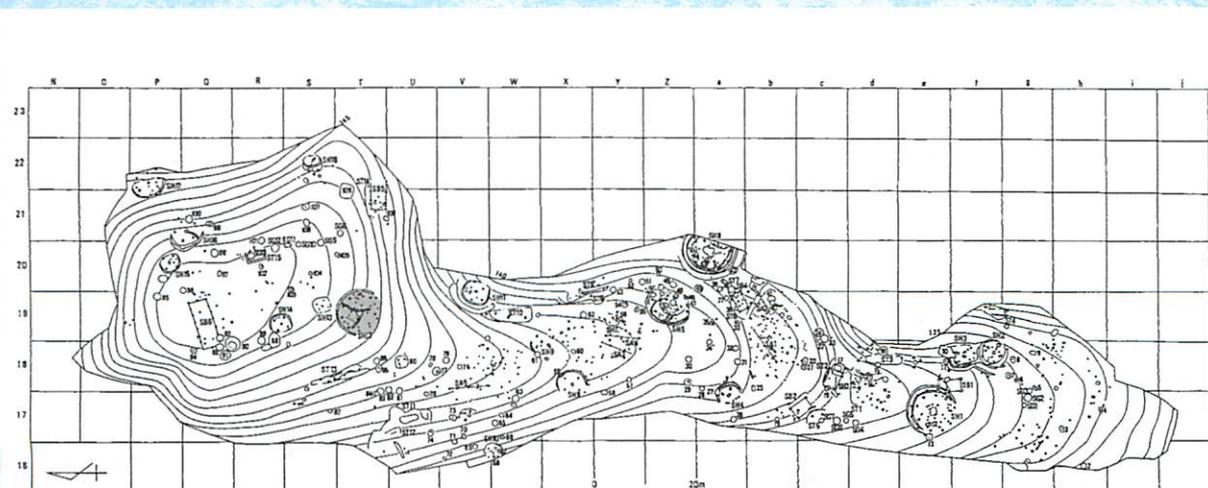


図1 荒神峪遺跡全体図 (S = 1 : 1500、SH12は網掛け部分)

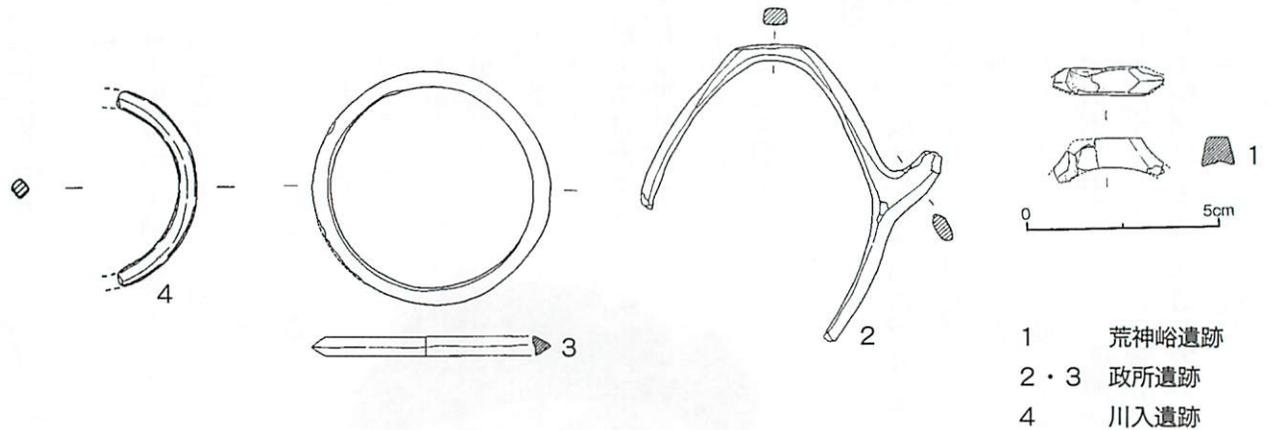


図2 岡山県内出土銅鉤実測図 (S = 1 : 2)

洋一氏のゴホウラ縦型・立岩型(有鉤)銅鉤(註3)などに分類される。

銅鉤は岡山県内では本例以外に3例知られており、岡山市政所遺跡から2例(註4)出土する。政所遺跡の1例は有鉤銅鉤(図2・2)で、もう1例は円環型(同・3)である。後者は形態が大きく異なり、前者は良く似ているが厚みの断面形が異なるようである。もう1例は川入遺跡(同・4)で円環型とされる(註5)が、政所遺跡のものとは断面形が異なり、調査担当者によると包含層出土のため時期は明瞭でない(註6)。この円環型は朝鮮半島に出土例があり、大阪府東大阪市鬼虎川遺跡(註7)では鋳型が出土する。

本例に近い有鉤銅鉤の類例は全国に34遺跡80数例(註8)知られており、分布は九州北部から関東地方まで広く分布する。墳墓での出土は、佐賀県唐津市桜馬場遺跡(註9)で26個、京都府与謝野町大風呂南1号墓(註10)で13個などまとまって出土する以外は、本例のように住居跡などで単独に出土する場合が多い。有鉤銅鉤の鋳型は福岡県に3例あり、夜須町宮ノ上遺跡(註11)などで出土しているが、製品との特定までは至っていない。

また、有鉤銅鉤の最近の研究では、断面など属性の分類により34遺跡の各形式分布図が示されている(図3、註12)。それによると本例はC式に分類され、九州での類例とは異なり、中国・四国地方以東に分布するとされる。

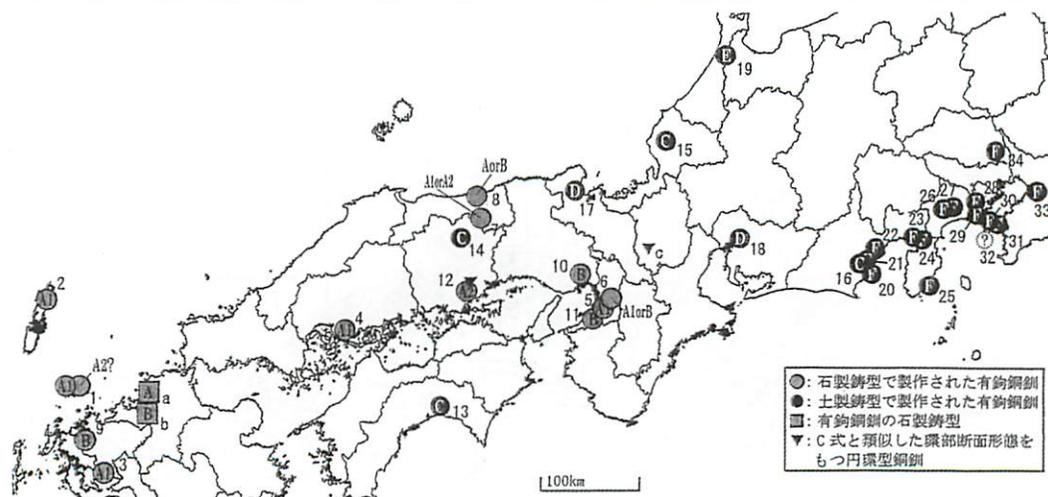


図3 有鉤銅鉤各型式分布図(註12より引用、12が政所遺跡、14が荒神峪遺跡)

また、有鉤銅釧の中でも環体が扁平な帯状になっているものが、埼玉県朝霧市宮台・宮原遺跡（註13）など東海から関東地方で集中して出土していて、図3のF式がそれで、C式からの派生と考えられている。これらの製作地はその分布状況から、東海地方が指摘されている（註14）。

おわりに

有鉤銅釧は図3のように、九州から関東地方に分布するようであるが、類例自体はあまり多くない。もともとは貝輪が忠実に銅器化された腕輪であり、その意味では貝のとれる九州地方がその製作地と考えられ、現に鋳型も出土する。さらに細かな型式による分布を見ると、その後は関東地方にまで広まり、それに伴い型式も変化し、九州以外の地域が製作地と指摘されている。

次に出土状態からその性格や機能について考えてみたい。銅釧を上位階層者の威信機能の場合と集落内の共有物としての機能などについて整理する考えがある（註15）。その場合本例は、お墓からの出土では無く威信機能というよりは、住居跡からなので、後者の共有物としての性格となろう。ただ厳密に言えば破片で、なおかつ柱穴内からの出土であるので、性格を考える上では破片であった意味合いなどを少し考慮する必要もある。それでは集落内でそれを使用した人物はどのような

性格であったのであろうか。本例の出土した住居は集落内では大形の部類で（図1参照）、中心的な住居の一つである。おそらく当時は青銅製品は数も少なく、これを身に付けた人物はなにかしら特別な性格の人物であったと推測される。

さらに想像を膨らませば、銅釧の出土した岡山市政所遺跡は、隣接する高塚遺跡（註16）から銅鐸が出土している。このことは銅鐸による祭式が周辺地域では執りおこなわれている。本例の周辺からは銅鐸の明確な出土は知られていないが、同一水系の鏡野町でかつて出土したとされる（註17）。これが事実なら本例周辺も銅鐸での祭式圏に含まれていた可能性も考えられる。この銅釧を持ち得た人物は、集落内での大形住居に居住する一方で、もしかすると集落内の司祭的な指導者を担っていた可能性をここでは指摘しておくたい。

註

- (1) 津山市教育委員会1999「荒神峪遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第64集』
- (2) 木下尚子1983「貝輪と銅釧の系譜」『季刊考古学第5号』雄山閣
- (3) 井上洋一1989「銅釧」『季刊考古学第27号』雄山閣
- (4) 岡山県教育委員会1999「加茂政所遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告1

38』

- (5) 南健太郎2016「青銅器から見た弥生社会の動態」『吉備の弥生時代』吉備人出版社
- (6) 調査担当者の草原孝典氏にご教示をえた。
- (7) (財) 東大阪市文化財協会1982「鬼虎川の金属器関係遺物」
- (8) 木對和紀「ノート031二種の銅釧(前篇)」『学芸員ノート』市原市埋蔵文化財調査センター(電子版)
- (9) 唐津市教育委員会2011「桜馬場遺跡(2)」『唐津市文化財調査報告書』ほか
- (10) 岩滝町教育委員会2000「大風呂南墳墓群」
- (11) 夜須町教育委員会1999「宮ノ上遺跡福岡県朝倉郡夜須町大字朝日所在の遺跡調査」
- (12) 菊池望2021「有鉤銅釧生産の展開」『考古学研究68-3』考古学研究会
- (13) 瀧瀬芳之2006「有鉤銅釧について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告318』
- (14) 註12、註13など
- (15) 北條芳隆2002「銅釧を祖型とする石釧」『環瀬戸内海の考古学下巻』
- (16) 岡山県教育委員会2000「高塚遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告150』
- (17) 昭和38年に2個の出土が知られるが所在は不明。

令和4年度特別展「博学弁才無双・津山藩主松平康哉 —学び続ける人々—」を開催します。

【会期】 令和4年10月29日(土)～12月18日(日)

【場所】 当館3階展示室

東京スカイツリーに複製展示されたことで一躍全国的に有名となった「江戸一目図屏風」の作者・鋏形蕙斎、優れた絵画作品を描いた広瀬台山、そして、津山における蘭学の先駆者・宇田川玄随。津山に貴重な歴史資料をのこした彼らを語るとき、登場するのが松平康哉(1752～1794)です。松平康哉は、財政窮乏、天明の米価高騰、外国船の来航など変化の時代を生きた津山藩主です。後に幕府老中となって寛政の改革を行い、さまざまな学問・文化に精通していた松平定信は、康哉のことを「博学弁才無双」と評しました。

いままで、藩政改革、大名との交友、絵師の抜擢などそれぞれの分野で語られてきた松平康哉について、「博学」という側面にスポットをあて、同時代に生き互いに影響しあった多様な人々と共に紹介いたします。

記念講演会

- ◆と き 11月26日(土) 午後1時30分～午後3時
- ◆と ころ 津山圏域雇用労働センター(山下)
- ◆講 師 京都大学大学院文学研究科 准教授 三宅正浩さん
- ◆定 員 80人(先着順)
- ◆料 金 無料



松平康哉「柳に鳩図」

諫早市友好交流都市 出雲市・津山市三市交流展が諫早市で開催されます。

友好交流都市である出雲市・諫早市との三市間の交流を図る目的で三市交流展を行っています。平成29年に、出雲市で、令和2年には津山市で開催をし、この度諫早市で、西九州新幹線の開業にあわせ、「西九州新幹線開業記念 諫早市友好交流都市 出雲市・津山市三市交流展」が開催されます。

【会期】 11月3日(木・祝)～12月18日(日) 10時～18時 火曜日休館

【場所】 長崎県諫早市東小路町2番33号 諫早市美術・歴史館

電話番号 0957-24-6611 HP:<https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/post07/12089.html>



博物館だより「つはく」
No.113 令和4年8月31日



【編集・発行】 津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

【印刷】 二葉

入館のご案内

【開館時間】 午前9:00～午後5:00

【休館日】 毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

【入館料】 一般…300円(30人以上の団体の場合240円)

高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)

65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です